

やまゆり

学校だより

令和5年10月23日
52号
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」一気づき・考え・実行するー
校内研究重点 「個別最適な学びと協働的な学びで、主体的に学習する生徒を育成する」

学校教育目標重点 「確かな学力の育成」

外川先生が県の指導主事を迎えて研究授業をしました

10月20日(金)に外川真夢先生が、3年生の体育の授業を校内で公開し、県の指導主事(グローアップ・ティーチャー)の小俣先生に指導して頂きました。3年生のソフトボールのバッティングに関する指導内容で、「ねらった方向にボールを打つこと」(知識・技能)と、「課題を見出して解決に向けて考えを伝え合うこと」(思考・判断・表現)を目標に指導をしました。

一人一人の生徒が主体的に学習に取り組み、バッティング技術向上のために意見を交流することができました。学習目標が明確で、指導案をしっかりと書き、成果や課題点を授業中やまとめて指導していることを評価して頂きました。また、1・2年生の授業以外の先生は研究授業に参加し、協働できる組織体制も評価して頂きました。

学習目標やポイントを視覚化

今日の学習目標について説明する外川先生



実技する外川先生

やる気満々 絢花さん

舞桜さんに助言・千莉さん

指導の小俣先生



嶺さん ICTを活用し友人への助言の準備



学習指導の様子を参観する小俣先生



ねらった方向に打つ生徒



用具を整理整頓する雅也さん



目標の課題を見つけ、意見を交流する生徒の様子



授業を全員で参観する組織体制



学習指導の途中で指導



今日の学習を振り返り、成果と課題を伝える外川先生



学校教育重点目標 「居心地良く、やる気のある学級・学校づくり」・「確かな学力の育成」

18日の公開研究会の紹介

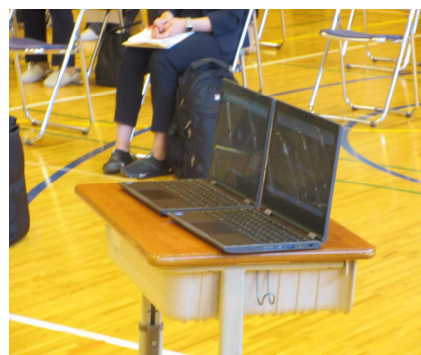
前号で天野先生の国語科の学習指導と太鼓演奏について紹介しました。その後の公開研究会の内容についてお伝えします。下の写真は国語科で学んだことを発表する景己さんです。一番右にパソコンが2台設置されています。国語科の学習の様子を新潟県の粟島浦村立粟島浦中学校の研究主任さんと上越教育大学の大学院の大島教授がオンラインで参観して下さいました。

また、太鼓の演奏は粟島浦小中学校の児童・生徒全員と教職員が参観して下さいました。

※ 自主的なへき地の小規模校同士の交流を文部科学省のホームページで紹介されています



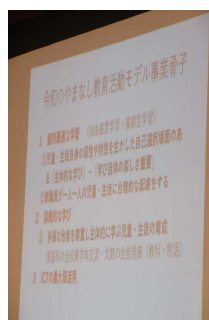
生徒会執行部の発案2年生が一番前 司会の三浦先生



研究主任の高村先生の説明



説明はとても分かりやすく、価値ある内容



理解を深めるパネルディスカッション 左は富高・右は三浦指導主事

高村先生・天野先生



○義務教育課 富高指導主事
○富士・東部 三浦指導主事

自律的な学習者をめざしキャリア教育も活用した実践を評価。
多くの学校で学級経営に苦戦。QUの活用や協働を評価。

山梨大学名誉教授 須貝千利先生

早稲田大学 高橋先生

太鼓演奏の会話と国語指導の対話を評価

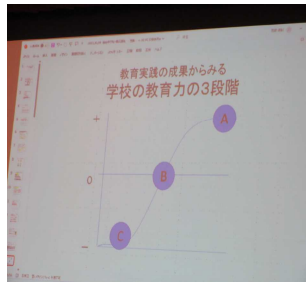
昨年度から指導 研究の成果を実感



河村茂雄先生のご講演



教職員の協働で成果も変わる 教頭先生からお礼のことば



河村茂雄先生の成果の指摘とその理由について

- 小規模校は、15名を下回る人数になると私的リーダーを中心とした階層的序列の弊害が起こる。学力育成の難しさだけでなく、いじめや不登校等の教育課題の可能性も高まる。
- 閉じた私的な特定化集団は、「敵」をつくって「秘密の悪口、陰口」で仲間同士で結束する。

- これからの教育には、「安定と集団の活性化」を両立した学級づくりが必要。しかし、それを両立した学級づくりを実現している学校は少ない。道志中は実現し、その理想を見せてくれた。
- 道志中の教育実践は、成果を挙げている学校の特徴と同じで、①各学級の成果が高い②学級間の落差が少ないという特徴がある。
- 18日の公開は、生徒の「国語科での異学年交流」と「太鼓演奏」での「協働学習」を提起する実践でした。国立大付属附属等が公開する内容を、公立で挑戦して公開してくれた。
- 生徒の協働活動の成果は、多様性を受け入れる「非認知能力」の向上による成果が大きい。
- 1年生の主体性や発言力は、「心理的安全」に基づくものであり、上級生への信頼の証である。
- 道志中の苦労して構築した「安定」を発展し続けるには「挑戦」が重要であり、楽なことや目先の楽しさを求めるとすぐに「固定」状態に陥る。縦割り班活動による挑戦・主体性はとても大切。
- 同質的な閉じた人間関係のグループの「特定化信頼」を、集団や個人の成長を促す「普遍化信頼」信頼にするためには、リーダーや人間関係の固定を避ける必要がある。
- 道志中の先生方は、指導すべき遂行目標と方法を共有し、PDCAサイクルで実践している。
- 道志中の実践のレベルは相当高い。教師と子供の山村留学や大学生のボランティアを活用させる実践校にすると良い。生徒も先生も社会に必要とされる実感を得られる貴重な実践だ。
- 道志中の成果の核心は、「教職員の協働性」にある。生徒も教職員も多様性。その中で何をすべきかどうすべきかを的確に判断し、主体性・協働性を生かしている。